

しもしなの  
下品野遺跡(本発掘調査B)

**所在地** 瀬戸市品野町5丁目地内  
(北緯35度14分56秒 東経137度07分30秒)

**調査理由** 主要地方道瀬戸環状線改良工事

**調査期間** 令和3年5月～9月

**調査面積** 740㎡

**担当者** 堀木真美子・蔭山誠一



調査地点(1/2.5万「猿投山」)

**調査の経過** 調査は、愛知県建設局尾張建設事務所道路整備課による主要地方道瀬戸環状線交差点改良工事に伴う事前調査として、愛知県県民文化局を通じた委託事業として実施した。調査区は国道248号と県道22号瀬戸環状線が交差する品野町6丁目交差点の東側にある。調査面積は740㎡で、品野町6丁目交差点の北東にある21A区・21B区、南西にある21C区～21G区に分けて調査した。また、21C区と21E区は21Ca区・21Cb区、21Ea区・21Eb区と南北に細分して調査を実施した。

**立地と環境** 下品野遺跡は瀬戸市北東部にある品野盆地の南東緩斜面にあり、北東から流れる水野川と南東から流れる鳥原川が合流する地点の南にある。遺跡の南東には、名古屋方面の南西から長野方面の北西にのびる中馬街道がはしっており、遺跡周辺は古代末から現代にかけての陶器・磁器を生産する窯が数多く営まれた地域である。

**調査の概要** 今回の調査では、飛鳥時代～奈良時代と平安時代～鎌倉時代、戦国時代、江戸時代後期～近代の主に4時期の遺構と出土遺物が確認できた。

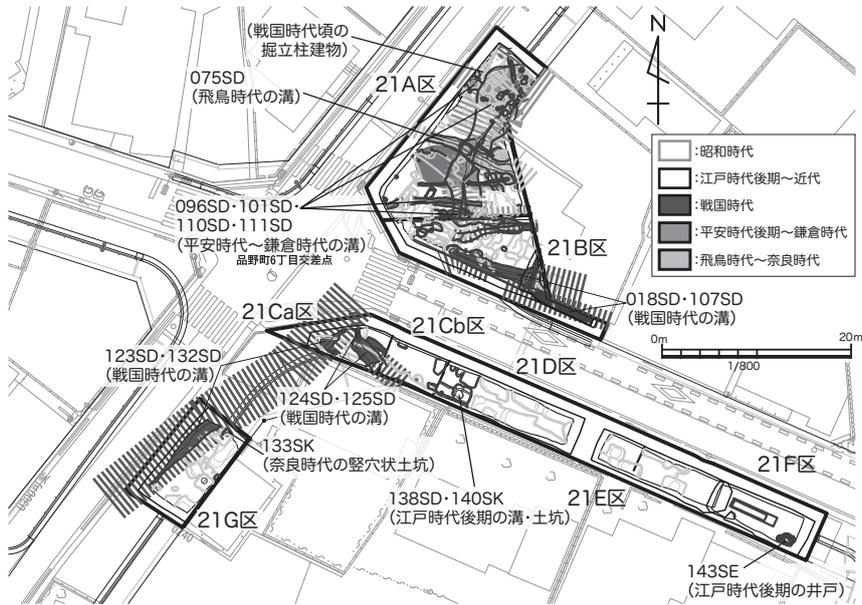
**飛鳥時代～奈良時代** 溝(SD)1条、竪穴状土坑(SK)1基、土坑(SK)4基を確認することができた。21A区075SDは地形の傾斜に直行する東西方向に流れており、075SDが埋まった後に087SK・089SK・112SKが形成された。交差点南側の21G区においても、竪穴建物跡の可能性のある竪穴状土坑133SKが見つかり、集落が交差点の周囲に広がっていたものと思われる。出土遺物には須恵器、土師器甕、製塩土器などがある。

**平安時代～鎌倉時代** 溝(SD)7条、土坑(SK)2基を確認することができた。溝は飛鳥時代～奈良時代の溝と同様の東西方向に検出されたが、21A区・21B区で確認できた020SD・111SDは南北20m程の区画を囲む西側部分にあたり、110SDは南北20m程の区画を囲む東側部分にあたる。周囲に溝に囲まれた屋敷地などの区画が展開していたものと思われる。出土遺物には灰釉陶器、山茶碗などがある。

**戦国時代** 溝(SD)6条、掘立柱建物1棟、土坑(SK)2基を確認することができた。21B区018SDと21Ca区123SDは、幅が2mを超える断面「V」字型をしており、屋敷地を囲む溝と考えられる。またこれら溝の南東側にも21B区107SDや21Ca区124SD・125SDが並行して検出され、区画の変遷や屋敷の内側を区画する溝になるものと考えられる。またA区北側に掘立柱建物が確認でき、居住域が北側にも展開する可能性が高い。出土遺物には天目茶碗、皿、播鉢などがある。

**江戸時代後期～近代** 井戸(SE)1基、溝(SD)1条、土坑(SK)4基、家の基礎と思われる石列(SD)2条を確認することができた。21F区143SEは中馬街道から7m程西に位置しており、街道に隣接する町屋に伴うものと考えられる。出土遺物には多様な椀、皿、徳利、播鉢、焙烙鍋などがある。

**ま と め** 今回の調査により、下品野遺跡が古代から近世にかけての複合遺跡であることが確認できた。各時代の遺構の広がりやその性格などの究明は今後の調査によるが、戦国時代の断面「V」字型の溝は、防御性を意識した形状を持つものと考えられる。 (蔭山誠一)



遺構平面図(1/800)



A区 全景(北から)



A区 075SD遺物出土状況(東から)



A区 096SD・101SD・110SD・111SD(南東から)



B区 018SD(西から)